

# 米連邦公開市場委員会は10年半ぶりの利下げを決定

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は10年半ぶりの利下げを決定。政策金利を2.00-2.25%へ0.25%引き下げ。
- FOMCは米国経済の底堅さを認めつつ、世界経済の不透明感とインフレ圧力の弱さを利下げ決定要因として指摘。
- パウエル議長は「長期的な利下げ局面に突入するものではない」と述べ、今後の追加利下げに慎重な方針示す。
- パウエル議長の利下げ慎重論を受けて米国株は下落。今後は米国企業の業績動向が米国株のカギを握る見込み。

## 世界経済の不透明感からFRBは利下げを決定

米連邦準備制度理事会(FRB)は7月30-31日の連邦公開市場委員会(FOMC)で10年半ぶりの利下げを決定しました(政策金利を2.00-2.25%へ引き下げ、図1)。

FOMC声明文は、米国の労働市場や経済活動は引き続き底堅いとの見方を示しつつ、世界経済の不透明感とインフレ圧力の弱さを利下げ決定の要因として指摘しました。

また、パウエルFRB議長は記者会見において、「(今回の利下げは)政策のサイクル半ばの調整であり、長期的な利下げ局面に突入するものではない」と述べ、今後の追加利下げに関しては慎重に検討する方針を示しました。

実際、今回のFOMCの政策決定に当たっても、利下げ票を投じた8名の委員に対して、2名の委員は金利据え置き票を投じるなど、FOMC内部でも利下げに関する見方が分かれていることが示唆されています。

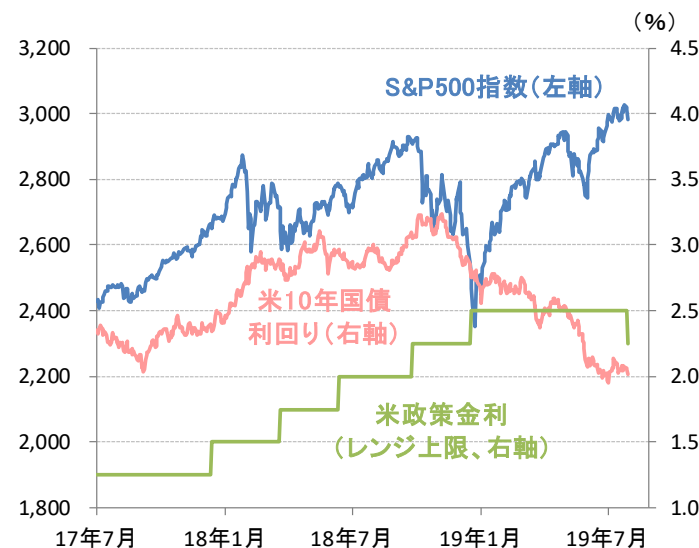
## 米国企業の業績動向が今後の米国株のカギ握る

金融市場ではFRBによる積極的な金融緩和を織り込みつつあったため、パウエル議長の利下げ慎重論の表明を受けて、7月31日の米国株は軟調な展開となりました。

2019年の年初からの米国株式市場は、FRBの利下げ観測を背景にした金融相場に支えられてきた面が大きいと考えられます。今後はFRBに対する過度な緩和期待が是正される中、米国企業の業績動向が米国株相場の先行きのカギを握るとみられます。

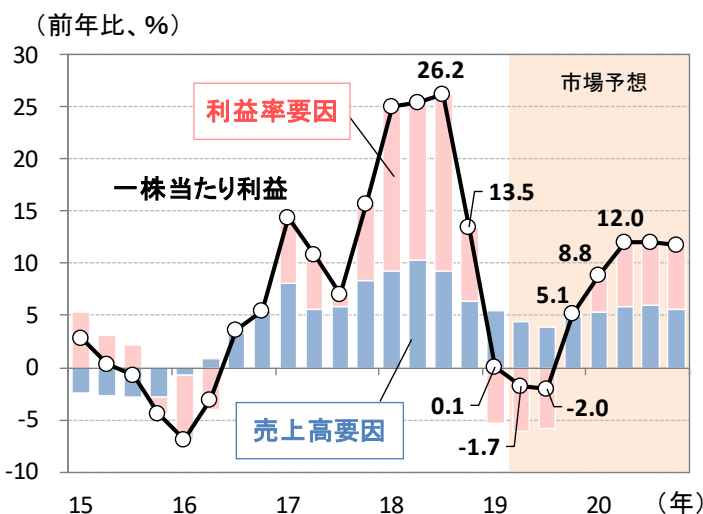
2019年7月末時点の市場予想では、2019年第2四半期から第3四半期が米国企業の業績サイクルの底とみられており、2019年末から2020年にかけて業績は回復に向かうと見込まれています(図2)。現在公表が続く2019年第2四半期の米国企業の決算発表では、業績底打ちが確認できるかに市場の注目が集まりそうです。

図1: 米国株、米政策金利、米10年国債利回りの推移



(出所)米連邦公開市場委員会(FOMC)、ブルームバーグ  
(期間)2017年7月3日~2019年7月31日

図2: 米国企業の一株当たり利益伸び率の要因分解



(出所)ファクトセット (期間)2015年1Q~2020年4Q  
(注)S&P500指数採用銘柄。市場予想は2019年7月末時点。